



～相模原浄水場の紹介について～



元 神奈川県内広域水道企業団 池田 航
(令和6年度抄録委員会委員)

所在地 神奈川県相模原市南区下溝2714番地
敷地面積 229,402m²
施設能力 527,600m³/日

1. 相模原浄水場の創設

相模原浄水場は、神奈川県内広域水道企業団の創設事業で築造され、神奈川県営水道及び横浜市営水道に対し、計画1日最大給水量378,600m³を供給する浄水場として整備されました。

水源は酒匂川の上流に築造された三保ダムに求め、飯泉地点で取水し、飯泉ポンプ場・相模原ポンプ場を経て相模原浄水場へ導水されます。供給エリアは県中央部や横浜市内で、将来的な水需要の増加を見込み、用地は余裕を持って確保しました。



図-1 上空から見た相模原浄水場

水処理方式は凝集沈澱・砂戸過方式を採用し、管理本館を中心に4つのブロックに分割。場内に大型の鋼製高架調整池を設置し、揚水後に自然流下で送水する方式としました。

昭和49年4月1日から供給を開始しましたが、水需要の急増に対応するため、昭和48年夏季には一部給水を開始しています。企業団設立から約4年で給水を開始できたことは、当時の状況を踏まえても驚異的な進捗でした。

2. 相模原浄水場の増強

企業団の創設事業は昭和53年度末に完了しましたが、その後も県内の水需要は増加していたため、新たに宮ヶ瀬ダムを水源とする拡張事業が、昭和55年度から開始されました。

相模原浄水場は、沈でん池の傾斜板増設などの対応をはかり、計画1日最大給水量を378,600m³から490,700m³に増強しました。増強分の供給は平成18年度から開始されています。

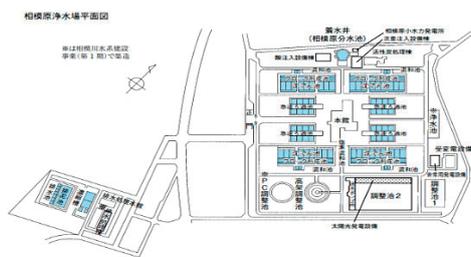


図-2 相模原浄水場平面図

3. 今後について(更なる増強)

県内の水需要は平成4年度をピークに減少傾向に転じましたが、施設の老朽化や激甚化する自然災害等に対処するため、現在、企業団と構成団体水道事業者は水道システムの再構築に取り組んでいます。

その中で相模原浄水場については、更なる増強(計画1日最大給水量490,700m³→561,700m³)が計画されています。新たな土地取得の必要がないこと、浄水場出口の標高が高く(H.W.Lで128m)、自然流下で広範囲に供給できるといった、この浄水場の持つ利点が活かされることとなります。

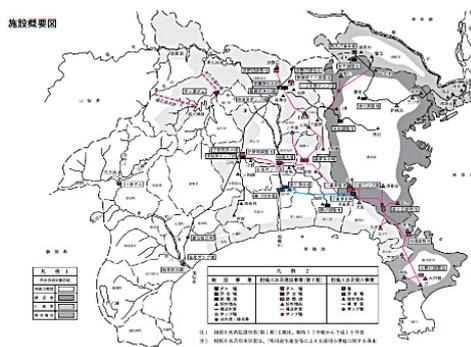


図-3 神奈川県内広域水道企業団の施設概要